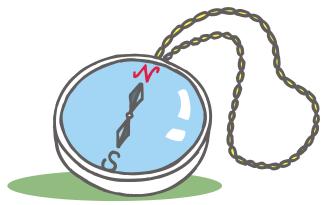


羅針盤

第14号

令和2年(2020年)8月3日(月)



◆ 志(こころざし)を高くもつ!

「志(こころざし)」を立てることが、とても大事であることについては、以前に校長室だよりも紹介させていただいたことがあります。そして、「志(こころざし)を高くもつ」ことは、より大事なことであると思います。2008年3月11日に、ケネディ宇宙センターより打ち上げられたスペースシャトル「エンデバー号」の宇宙飛行士であった土井隆雄さんは、当時の任務であった日本の実験棟「きぼう」保管室を無事に設置して保管室に初めて入室したときの心境を、次のように語っています。「やっとここまで来たなという感激。宇宙飛行士に採用された約20年前に始まったプロジェクトがついに実現した。」と述べています。土井隆雄さんは、20年という年月をかけて、夢を実現させたのです。彼は、常に「志(こころざし)」を高くもち続けて、それに向かってひたむきに努力を続けることを決して怠らなかったのです。生徒の皆さんにも、今何をすべきかということをしっかりと見据えて、自分自身と向き合い、具体的な目標を立てて行動してもらいたいと思います。とりわけ、3年生の皆さんにとっては、これまでの中学校での3年間の真価が問われる、義務教育での最後の1年となります。残された中学校生活をどのように過ごしていくのか、これから歩むべき人生の岐路(きろ)に立っている皆さんにとって、どのような「志(こころざし)」をもちながら、瞬間(とき)を過ごしていくのか、学校生活の一瞬一瞬を大切に過ごしてもらいたいものです。中国の「小学」という書物には、「志を立つこと高からざれば、即ち其の学皆常人の事のみ」という言葉があります。「志(こころざし)を高く立てなければ、その人自身の学問も平凡なものとなってしまう」という意味です。「高い志(こころざし)」をもち、精一杯努力することに喜びを感じる人に成長していってくれることを大いに期待しています。



◆ 史上最年少タイトル獲得

7月16日(木)に、将棋の棋聖戦五番勝負の第4局が行われ、挑戦者の藤井聰太七段が渡辺明三冠(棋王・王将・棋聖)を破って、将棋の八大タイトルの一つである「棋聖」を奪取しました。17歳11か月での初戴冠はこれまでのタイトル獲得の最年少記録(屋敷伸之九段の18歳6か月、棋聖位)を30年ぶりに塗り替える快挙となりました。今回のタイトル獲得記録更新は、将棋界の新時代が到来したことを意味していると感じている関係者も多いようです。彼の強さの秘密は、何といっても「研鑽(けんさん)」の2文字に表されているそうです。4月から5月にかけての約2か月、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、藤井新棋聖は公式戦の対局ができない日々を過ごしていましたが、その間に「今年に入って指した対局をじっくりと見直した」そうです。現代的な将棋ソフトに頼ることなく、あくまでも自分自身の頭での読み筋や形成判断を精査し直したそうです。日々の「研鑽(けんさん)」、これに勝るものはないということ、私たちも学ばなければいけません。

